田舎丸出し お土産のマス

校長 晴山泰文

「晴山君、どうもごちそう様」

高校1年だったある朝、担任の先生に言われました。話を聞いてみると、昨日私の父からマスをもらった、と言うのです。

私は奥尻島(青苗)の出身。中学校まで島にいて、高校は島外に通いました。たぶん、保護者と担任の 先生との面談だったのでしょう。お土産のマスをぶらさげて船に乗って街までやって来たのです。

檜山沿岸のマスは今でもそうですが、大変に価値があります。マスのフライは私の大好物で、一人暮らししていた時も、味が恋しくて自分で作っていました。ただ、当時の私は、田舎丸出しの父が恥ずかしくて、自分を棚に上げて、心の中で「この田舎者!」と父を激しく罵りました。せめて、江差名物の羊羹にしてもらいたかった……。

しかし、今なら父の気持ちがよく分かります。自分の長男がお世話になっている先生に、自分の田舎 の逸品を、と思ったのでしょう。

久しぶりに会った父との昼食はお寿司屋さんでした。40年近くも前の話ですので、当時の私には「お昼にお寿司」という贅沢は想定外です。きっと、離れて暮らす息子に美味しいものを食べさせたいという親心だったのでしょう。この気持ちも今はとてもよく分かります。ちなみに、この時父は「熱燗」もつけてもらいました。「昼から酒!」と唖然としましたが、これも、今ならすっごくよく分かります。

さて、本校の教育目標は、次の4つです。

考える子 助け合う子 やりぬく子 きたえる子

4月6日には6名の1年生が入学ました。今年は24名のお子さんが河北小学校に通ってきています。 始業式と入学式では、1年生やお互いに「優しくしてほしい」という願いをこめて、本校の教育目標の 「助け合う子」の話をしました。

私の父を引き合いに出すまでもなく、それぞれのご家庭で大切にされているお子さんをしっかり育てていく責任を強く感じています。

今年も職員一同せいいっぱい頑張っていきますので、河北小学校の教育活動にご理解とご協力をよろ しくお願いします。